

令和6年度第3回旭川市史デジタルアーカイブ検討会 議事要旨

日 時：令和6年10月4日（金） 午後6時00分から午後7時30分まで

場 所：旭川市総合庁舎2階 臨時窓口スペース

出席者：参加者9人（50音順，敬称略）

海老名 尚，桑野 紗耶加，小林 蒼斗，斉藤 真理子，谷口 雅彦，
東海林 柚希，那須 敦志，平塚 清隆，森崎 真美恵

事務局4人

総務部次長 金，総務課長補佐 岡田，総務課主査 安江，総務課 高島
傍聴者1人（市民0人，報道1人）

議 事：1 テーマ設定について

2 コンテンツについて

3 その他

議事1 テーマ設定について

事務局からテーマ設定について説明。

参加者の発言等は次のとおり。 ※「議事2 コンテンツ」に関連する発言も含む

【参加者】

観光スポットなどが（画面に）あって，そこをクリックすると何年にそこができたとか，以前はこういうのがあったとか，というのがあったら楽しめる。

また，コンテンツの話になると思うが，旭川出身のアーティストや作家など紹介して，その作品が聴けたり，見られたりすると面白いと思う。

河川をテーマにした場合，過去の災害はあったけれど現在はそれほどでもないとか，アピールできたらいいと思う。

【参加者】

テーマ設定を考えるときに感じたこととして，このデジタルアーカイブはエンターテインメント寄りになるのか，あるいは，学習に使えるようにだったりとか，災害を知ることができるのか，旭川を取り巻くまちの話だったりとか，そういう風に寄っていくのか。

例えば永山というまちについて歴史を整理して，テーマ設定できると良いと考える。旭川全体から永山の情報を探すよりは，整理された永山というテーマから探すことができたら扱いやすいし，学習の効率も良いと思った。

【参加者】

今非常に重要なことを仰っていただいた。このデジタルアーカイブは市民に開かれたものということになるけども、誰を何を対象とするのか。このテーマはこういう人たち、などと考えなければならない。万人に受け入れられるものもあるかもしれないが、多様性の時代において、いろいろな角度で配慮しながら、その対象に向けてどうするのか、というところを見極めながら、テーマは考えなければならない。

【参加者】

(これまでの)年表は高等学校卒業者を対象として作成されてきたというのが元々あるので、そうすると子ども向きというのはもっと平易な文章で作らなければならないので、そこは見直さなければならないところがある。簡易なショートバージョンを作って、大人の一般用と選択できるようにすると良い。また、分野や年代などで検索ができるが良い。

年表の文章中の人物名にカーソルを当てると顔写真がポップアップされ、クリックすると略歴が表示される、「旭川市長」というワードには歴代一覧がリンクされている、建築物名には地図や変遷の画像がリンクされているなど、このような機能があると年表でも深みが増して歴史の内容が伝わりやすくなるのでは。主要人物の顔写真、略歴、要職の歴代リストなどはまとめてすぐに見れるようになって良い。

また、より詳しく知りたい人へ向けて、年表には出典を表示した方が良いが、既存の市史が出典となる場合はさらにページが示されているなどしておく調べやすい。

これら年表の機能については、事業者との調整で決まることだと思うが検討すると良いと思う。

コラムもあると良い。あまり長くない原稿で、例えば、常磐公園と常盤町の字の違いなど、そういうのも載せておくが良いのかなと思う。

【参加者】

コンテンツの話かもしれないが、年表、写真、動画、地図のほかに、音声も良い。オーラルヒストリーも含めた町の音声とか、買物公園や昭和通りの音声とか、そういうようなコンテンツも良いと思う。

あとは村、町、区、市へと段階的に発展していく様子が年表とかでわかりやすくなっていると良い。周辺エリアとの分かれ方、名称に関わる各町の思惑など、面白い話題も入れてほしい。

テーマに関しては、私たちがゆかりのある、自慢、自信、伝えたいものとかそういうようなものを最初に取り上げてはどうか。また、市民中心の探索隊みたいなものが、旭川ラーメンであればラーメンについて、現在の実際の現場を取材するなどして盛り込むとアーカイブとして良いと思う。目で見るだけでなく様々な感覚を伴って伝えられるようにしていくと良いと思う。

【参加者】

人物、公園とか、市民が自慢できるものをテーマとしたら良い。

また、聖地巡礼の観点で関係する施設だったりとか、そういうものも良いと思う。

あとは、字だけだと入りにくい方もいるので、写真だったりとか音声とかもあったら親しみやすい。

【参加者】

先ほど何を誰を対象とするかという話があったが、考え方としては、年表やデータベースは高校生以上くらいの詳しさになると思う。これに対して、特集記事のようなかたちで展開するものに関しては目線を下げた方が良いと思う。

報道の業界では中学生以上が分かるように文章や映像を制作することが基本だが、広く一般に向けて発信するなら中学生以上くらいの目線が良いかなと話聞いていて思った。

テーマの設定については、普段から、講座とか何かでどういうテーマにしたら皆さんに喜んでもらえるかな、関心持ってもらえるかなと考えながらやっているが、これが難しい。実際、これは喜んでもらえるだろうなと思ったらそうでもなかったり、逆にこれちょっとマニアックかなと思ったことが、凄く食いつきが良かったりとか。なかなか難しいが、アンケートのようなもので市民の方がどういうものについて知りたがっているのか調べてみるのも良いなと思った。

人物を取り上げることについて、よく知られているところで小熊秀雄、三浦綾子などがいるが、それほど知られていなくても重要な人物がいて、社会活動をやっていた方、遊郭の女性を救う活動の佐野文子などにスポットを当てるのも良い。

買物公園や常磐公園などのスポット、地域、旭橋や旭川駅といった場所。分野別の歴史として旭川家具や酒蔵。旭川はスポーツも凄く、この間も北口選手が金メダルを取ったが、昔からメダリストも多い。出来事でいえば災害はとても重要。

歴史を見ていると、旭川にとって大きな転換期、出来事と言えることがいくつかある。例えば、昭和25年の北海道開発大博覧会という、戦後の北海道の一大イベントだが、札幌ではなく旭川で開催された。ほかにもアイヌ、師団。そのようなところが良いと思う。

【参加者】

旭川の成り立ちというか、大きくなっていく発展の様。例えば、最初は川に挟まれた小さな市街だったのが、いつの間にか色んな町、地域と合併して行って、当初の面積より十何倍になったという話がある。私のイメージとしては、パッチワークのようなまちなのではないかと思ったこともある。例えば、永山の中に字当麻があった、それがまた分散していくという。また、旭橋の初代は鷹栖橋だったと。なんで鷹栖橋だったのかなという、石狩川の向こうが鷹栖だったからだ。知ることによって、あれはそうだったんだということが出てくる。そのような、ちょっとした発見ができるものになったら嬉しい。

終戦前後であまり資料が出てこないこととして、進駐軍について。3か月くらいしかいなかったらしいが、彼らの暮らし。

それから、戦後の建物取り壊しなどで街並みの変わった雰囲気が分かるもの、マーケットなど、終戦前後のどさくさに紛れた時期の様子が個人的に知りたいと思う。進駐軍が来たときはおそらくいろいろなことが起きている。無礼を働いた米兵を旭橋の上から投げ飛ばした人もいるという話も聞いた。そういうものも拾ってみるとなかなか興味深いものができるかなと思う。

師団の話も出たが、昔師団に関わった文学者について情報を集めていた。結構有名な人が出入りしていたりあって、興味深い部分もあるが、特に若山牧水。師団の参謀長の斎藤瀏（りゅう）の官舎に泊まっていたが、手紙のやり取りなんかを見ると、牧水の人柄みたいなのが出てくる。そういうものを上手くコンテンツとして出せると良いと考えた。

【参加者】

コンテンツというのを、文章や写真、映像、図、デザインなどを組み合わせて作られたものと理解していて、それを上手く分野別に、例えばまつり、人物、歴史とか、そういったものを一つずつ分野別に出して行って、それに紐づけられて、文章の説明がある、写真がある、映像がある、図や何かしらのデザインがある、というような統一性があるコンテンツが出来ていけば見やすいのかなと思う。何を調べるのでも統一性があると、同じように調べていける。見ててちょっと面白みに欠けるのかもしれないけど、そういったところは写真や図や映像でカバーして、そういった形で作っていくのはどうかなと思った。

【参加者】

絵はがきとかは載せられるのか。

【参加者】

著作権の問題は法律で改正が色々あって、明治、大正とかは大丈夫だが、昭和に入ってからだといろいろな関係に配慮しながらかと思う。使えないことはない。

【参加者】

結構、旭川の絵はがきは戦前からずっとあって、それだと建物の変遷が分かる。

【参加者】

写真で残っているものよりも、絵はがきで残っているものの数の方が勝る。
明治や大正は写真より絵はがきが多い。

【参加者】

(絵葉書は) 様々な方が撮っているが、主に地元旭川の写真家や写真館。明治期の写真は写真館の撮影によるものが多く、現在まで続いている写真館によるものもある。

生写真はなかなか残っていない。当時、明治の写真は鶏卵紙(けいらんし)といって卵でプリントされていることが多かったりするので、100年ももたなかったりする。そこはやはり絵はがきで印刷されたものを活用していくということになると思う。

【事務局】

こちらも例としていくつか挙げてみた。結局は資料が集まるかどうかによる。

- ・住まいのエリアや出身学校への思いのようなものに応えるもの
- ・暮らしの移り変わりで寒さ対策の変遷など
- ・長く続いている行事やイベントで、音楽大行進、冬まつりなど
- ・交通の分野で鉄道、路面電車、バス、空港など
- ・流通の分野で卸売業や運送など
- ・現在有名となっている旭山動物園
- ・災害防災に関連して牛朱別川切替工事など

・明治期の北京建議，離宮計画

挙げればきりが無いが，意見にあったとおり，旭川の自慢になりそうなものは分かりやすい。意見を参考にしながら絞り込みをしていきたい。

【参加者】

北京，離宮に続いて，道庁の移転運動という話題も入れると良い。

【参加者】

テーマは旭川叢書（そうしょ）みたいな，きちっとした形で揃っているものを活用するのも良いかと。

そして，このテーマをどういう工夫をして見せていくかというのがコンテンツの話題となる。

議事2 コンテンツについて

事務局からコンテンツについて説明。

参加者の発言等は次のとおり。 ※「議事1 テーマ設定」にもコンテンツについて発言あり

【参加者】

誰をターゲットにするかでいろいろと変わると思うが，市民はもちろんのこと，観光や移住につながるように，住みやすそう，楽しそうと思ってもらえるような内容にしていきたい。映像，音声，地図など，分かりやすくするのが良いと思う。

先ほど災害の話もあったが，旭川は地震が比較的少ないというような，移住の安心につながるような情報も出せると良いかと。また，観光では，先ほど話題に出たとおり，聖地巡礼などやってみたら楽しそう。

商売になると難しいとは思いますが，作家の著作物や旭川のグッズなど，アーカイブの情報から各々の販売のサイトにリンクできても面白い。

【参加者】

現実的には厳しいかもしれないが，WEB上のマップで地図を見たときに，地図の道の真ん中に人を落として，その目線で見られる機能はどうか。これを旭川駅とか旭川市内限定で，そういったものを作れたら，そのまちに住むイメージがしやすくなると思った。

【参加者】

あまり欲張って雑然とならない程度に，より分かりやすく洗練され，かつ少し尖る要素があると良い。SNSやWEBニュースとかに取り上げられるような。

【参加者】

（この検討会は）答申をするために何かを決める訳ではないので，叶わない夢も，いろいろな

可能性の話も語って問題はない。予算やデジタルアーカイブの趣旨を踏まえながら市が考え、選択していくことになると思う。

【参加者】

社会科副読本の対象となる小学校3年生、4年生の授業ではすでにタブレット端末が使われているので、副読本にQRコードを載せて、アーカイブの写真が見れたりしたら、小学生もすぐアーカイブを活用できて、より良い学習につながる。

もう一つが、地図を重ね合わせするコンテンツに関連して、建物や街並みを同じ画角で捉えている写真が何枚かあったら、動画みたいにして、少しずつ変化していくようなものにできたら分かりやすい。これに加えて、クイズ形式とか、これは何でしょうみたいに見せて行けたら、小学生や中学生は入りやすいと思った。

【参加者】

コンテンツ展開については、デジタルを活かしたい。参考として配付したのは、戦前の地図、大正末の一番詳しい地図が図書館にあって、約A4サイズで何枚もあるものを全てスキャンして、パソコンで画像を繋ぎ合わせ、紙に出力したもの。当時は常磐公園の南側に牛赤別川があって、今はないロータリーのところにある常盤橋、常磐公園の少し先にある相生橋、逢来橋という3つの橋がある。日章小学校と、庁立高校、これは西高の前身だが、そのグラウンドの斜め右に切るようにあるのが良く分かる。

例えばこのような資料がデジタルになることによって、スクロールをしたりとか、クローズアップしたりとか見たいように色々操作できるようになり、昔の自分の家の周りが当時どうだったのかというようなことが知ることができようになると良い。

あと、渡辺義雄さんという、もうお亡くなりになった方が、(昭和後期の出版物として)昭和6、7年頃に遡って旭川の中心部を研究してまとめられた図があり、これらを繋ぎ合わせると旭川駅前からの旭川市街地全体の地図になる。著作物の著作権は出版社に確認が必要だが、これは旭川の郷土史の金字塔みたいな仕事で、これを例えばデジタルで見られると良いなど。昔の企画でパネルにして展示したことがあり、多くの人の関心を集めていた。

もう1つ、写真も昔のパノラマ写真が結構旭川に残っているが、これも紙ベースよりデジタルの方がスクロールしたりなどできる。(高いところから街並みを見下ろすパノラマ写真などは)渡辺義雄さんが細部が見やすい線画にトレースして描き、建物の情報を手書きで添えている。写真をただ載せるだけでなく、今と昔が繋がるように経緯の解説や、比較できる現在の写真があるともっと面白い。

図書館所蔵のもので、昭和30年代の平和通りの店舗をパノラマ写真風に撮ったものがある。現在の写真と比較すると変化がわかる。これもデジタル向き。

動画については、昔のホームビデオが残っている場合があり、知人・家族の許可を得て図書館に納めたこともある。動画はそのまま見せるだけでなく、場所など内容の解説、ナレーションやテロップなどを加えると、今と繋がって面白くなる。動画の場合は特に著作権が難しいが、例えば業者や団体が発表したものについては割と早くに著作権が切れている可能性があるため、専門家に協力して貰ったら、使える映像がいくつか出てくるのではないかなと思う。

テキストのコンテンツについては、文章はあまり多くならないよう、コンパクトにまとめることを念頭に置くと良い。いま取り組んでいる書籍の編集でも、見開き2ページで1つのテーマ、しかも写真を多用して分かりやすくというコンセプト。デジタルなら尚のこと、文章をコンパクトにしてビジュアルを充実させるというやり方が良いと思う。

【参加者】

前回の議題で触れられたのかもしれないが、現在どのような資料があるのか、ということや市がどれだけ把握しているのかということ。これは持っている、これは集めなければならない、という整理をするために、市は早めにリストアップするなどの作業をした方が良い。

【参加者】

自分の興味本位だが、神居古潭の伝説にまつわる石狩川の岩石群などは誰でも歩いて見ることができないので、ドローンなどで撮影して、解説を入れて詳しいところがわかるようになると良い。これから撮る映像なので著作権も気にならないはず。

【参加者】

先日、道外の大学生が来旭してアイヌやまつりに関する取材を受けたことがあり、関連して、ある年代の観光に関する情報も知りたいとのことだったので、市の関連部局に聞いたが、残っているものがなく、調べるにも時間がかかるという話だった。旭川市史は大学図書館にもあると聞いて、そういうものなのかと驚いた。

【参加者】

自治体史は規模の大きい大学だと大体ある。それが今だとデジタルコンテンツとして自由に見られるようになる。

【事務局】

こちらでもいくつか考えてみたこととして、

- ・主要な人物の図鑑
- ・歌曲や音頭等の音声
- ・世代別の座談会の記録
- ・写真の手がかりを見て年代などを当てるクイズなど

【参加者】

今回は自由な意見で大風呂敷を広げたような話になってきたが、これをどこまでかたちにするのかというところは市の方でも検討していただければ。

今度は戦後編を編集するにあたり、基本は何の資料を持っていて何を持っていないのかというところを、まずしっかりと把握しておかなければならない。写真であれ映像であれ。それが基本かなと思う。

それともう一つは、図書館、博物館、記念館だとか色々あるが、深く関わりそうな団体との

連携が必要で、市の総務課だけでやれることではないので、今は総務課が持っているのはこれだけで、ほかの施設や機関でどういう資料があるのか、今回の議題に対して、それを満たすだけの資料があるのか、関係の深い方面からどれだけ引き出して、集めていくのかということになるので、そういうところの整理を検討していただきたい。

議事3 その他

意見・提案等の発言なし

以上